



Rotary Opens Opportunities

Rotary International District 2800

# 山形西ロータリークラブ会報

会長：佐藤 章夫 幹事：遠藤 正明

地区目標

「4つのテスト」を実践し ロータリーの価値をたかめよう。

クラブテーマ

Let's Make The Best Better 前へ!

◆点鐘：佐藤 章夫 会長

◆ロータリーソング：奉仕の理想

◆司会：長岡 壽一副 S.A.A.

◆会場：山形グランドホテル



Yamagata West Rotary

第2900回例会

令和3年2月15日(月)

## 会長あいさつ

佐藤 章夫 会長



今日は少々、お堅い例会になります。ロータリーフォーラムで「ロータリーとは」について、パネルディスカッションの形で話し合っていたくこととなります。基調講演は細谷伸夫パストガバナーにお願いしました。これまでもファイヤーサイド

ミーティングを3回開催して、ロータリーについての勉強会をしてまいりました。

私はこれまで色々な組織・団体の役員を経験してまいりましたが、その組織や団体が何の目的で作られたのか、何をやろうとしているのかの理念を常に確かめ合い、原点を大事にし、かつ変えるべきところを変えながら、組織共有のものとしていかなければならないと思ってまいりました。その点、ロータリークラブは国際、国、県、ブロック、単位と繋がる大きな世界組織ですが、理念の統一と浸透、そして絶えざる改善の試みなどで、誠に模範的な組織だと思っております。

ファイヤーサイドミーティングで皆さまのお話をお聞きしながら、日本にロータリークラブと似たようなものはないだろうか、と思いを巡らせましたら、ふと、頭に浮かんだのは喜んで捨てると書く、「喜捨(きしゃ)」。それから、「施餓鬼供養(せがきくよう)」。これは「せ」は施す、「がき」は飢えた鬼とかきます。それから「有徳人(うとくじん)」。徳の有る人。有徳人という有徳人。それから「論語とそろばん」という言葉です。

喜捨とは喜んで捨てることです。いやいやながら強制されて捨てるものではありません。元々は神社仏閣など、エノタネやモノを寄進することです。「施餓鬼供養」とは神社仏閣の境内に大きな窯を据え、粥を炊いて、誰彼の差別なく、人々に振る舞うことです。元々は仏教の輪廻転生思想で、餓鬼道に落ちた先祖を供養する意味があったのですが、貧民救済の事業として、昔から広く行われてきました。そこに集まった群衆の中で、長年、探し求めていた親子が再会して、めでたしめでたしとなる話が多く残っています。最も今は楽しく、友だちと交流するだけのことですが、それでも「共に食する」というのが大事で、食事がいかに人と人との絆を深めるかを示唆しています。ロータリークラブの例会で会食をするのは、そのためでございます。

有徳人、徳のある人は喜捨し、施餓鬼供養をして、善行を積んだ人々の尊称です。これは転じて、金持ちとか富裕な人たちを指す言葉になりますが、こういう人々は徳のある人でなければなりません。さらに「論語とそろばん」。「論語とそろばん」は渋沢栄一の言葉です。これはまさにロータリーの職業を通じた社会奉仕と合致します。どこの国でも心ある人々が物・金を出し合い、ボランティアで善意の組織を作って活動する。正に共助であります。共に助ける「共助」でございます。これこそ、地域社会の安寧を保つ基本であると、私は思っております。

## 幹事報告

遠藤 正明 幹事

- 金沢西ロータリーさんより、地震のお見舞いということで、メールを頂戴いたしました。大変ご心配をおかけしたようでございます。事務局のほうからすぐに返信をさせていただきますところですよ。
- 2月のロータリーレートは104円です。

## ニコニコBOX

〈2月15日〉

佐藤章夫会長／クラブフォーラム

大事なクラブフォーラムです。細谷パストガバナー、パネリストの皆さま、よろしく願いいたします

## 三密コーナー

### コロナ禍の友好クラブ (金沢西ロータリー編)

【昼の会】

- ◇2020年4月／非常事態宣言発令…全面休会
  - ◇6月／宣言解除後…食事だけの自由参加例会
  - ◇11月／卓話開始
  - ◇2021年2月／再休会
  - ◇3月／ZOOMでの開催にトライ予定
- 《試行錯誤、手探り状態が続いています。》

【夜の会】

- ◇6月／最終例会
  - ◇8月／納涼例会
  - ◇10月／観月例会
  - ◇12月／年忘れ例会
- 《意外にも、会食を伴う夜の例会はしっかり実施。》

## クラブフォーラム



「ロータリーとは」

細谷 伸夫 会員

パストガバナー

フォーラムは、従来年4回やってほしいと言われておりまして、4大奉仕、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕についてやっていただいて、そしてクラブの一定の方向を決めてほしいという趣旨でございます。

フォーラムの目的は、奉仕活動の中から問題を取り上げて、その実施、推進について全会員で検討し、進むべき道を見つける、これがフォーラムの目的であると言われております。

早速入りますけど、ロータリーとはなんぞやというところでもあります。なかなか難しく、もう100年間議論がなされているとこだと思いますけども、端的に言えばロータリーの綱領、今は目的となっておりますけど、それに尽きるんじゃないかと、単純に考えればそれでいいだろうと思っております。

それで綱領の本文のところには、「意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある」と書いてあります。次に掲げる各項を奨励すること、第1項は親睦とクラブ奉仕。第2項は職業奉仕と社会奉仕。第3項はロータリアンとしての心構えだろうと私は考えております。第4項については国際奉仕と親睦と書いてあるのであろうと思っております。4大奉仕と言いましたが、今は青少年奉仕もありますから5大奉仕になってますけども、とりあえず4大奉仕にしておきます。

1つ目は、ロータリーの金看板は職業奉仕である。これを抜きにしてはロータリーを考えられないというところでもあります。

2つ目は、社会奉仕であります。これは奉仕活動に重点を置く考え方で、今のR I、国際ロータリーが主に考えている考え方であります。

3つ目は、親睦が金看板であると言っております。仲間を作り、楽しい時間を過ごすのがロータリーであるという考え方であります。

では、1つ目の職業奉仕について考えてみますと、日本で根強い考え方を持っております。R Iの規定審議会では約10年ぐらい前から消え去ろうとしています。日本は危機を感じている考え方です。

この職業奉仕、皆さんご存じだと思いますけれど、1905年にポール・ハリスが創ったロータリーは、相互扶助、あるいは互恵主義と親睦を目的としておりました。そしてクラブ第1号のシカゴロータリークラブでは、定款には「会員の事業上の利益の促進」ということを書いております。それから第2として、「通常、社交クラブに付随する良き親善とその他の特に必要と思われる事項の推進」を定められております。私はこれを原始ロータリーと呼んでおります。

それが1911年になりまして、アーサー・フレデリック・シェルドン、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」、それからフランク・コリンズ、「超我の奉仕」という考えを提唱いたしました。これによってロータリーは大き

く職業奉仕のほうに舵を切ったわけでありまして。1915年には、ロータリー倫理訓、通称「道徳律」が採択され、また、1923年には決議23-34が採択されまして、職業奉仕が理念の中核となったわけでありまして。

先ほどの、原始ロータリーということであれば、これは金のためなら手段を選ばないという、当時の泥棒貴族を指していたと思われまして。この根拠は、まずクラブという名称を使ったということが1つあります。それから、泥棒貴族の社交界親睦を定款としていたところから、多分似たようなクラブを作りたいと思って創ったのではないのかなと思っております。ところが当時のシカゴの劣悪な生活環境とか環境災害、経済格差、人種差別、困窮する市民、10年以上続いている労働争議、そしてその労働争議は常に銃撃戦を伴ったと。軍隊まで出動したというのが現実であったわけでありまして。これに目を向けて自己と市民と社会の奉仕に方向転換をしたというのがこの職業奉仕への転換であります。この倫理訓というのも問題があって、ローマカトリックとの間でやり玉に上げられたということがあります。そして、職業奉仕の理念というのは、利他の心と、すなわち、思いやりの心と私は解しております。

職業奉仕を中核と捉える考え方は、ロータリーの倫理性や精神性を説くものであります。会員1人1人の向上、それから利他の心の醸成を目的としておりまして、ガイ・ガンディカーが、「自分自身、事業、社会を向上させる向上運動である」と言っております。それから、米山梅吉が「人間を育てる道徳心を育て、広めるためのプログラムである」と言っております。「それゆえ、奉仕哲学の探究に真摯な態度で取り組むことがロータリアンの善意である」と言っております。「例会は修行の場である」と言わしめて、「例会がロータリークラブの最も重要な場所であり、時間である」と言っております。ロータリーは会員に対してどうやって道徳水準を向上できるかを話し合うことを求めたのであるということでもあります。そして、ガバナーになると必ず、必須の研修会である国際協議会に行かなくちゃまずいんですけれども、会場には、「入りて学べ、出でて奉仕せよ」という標語が掲げられております。こうやってロータリアンは修行なんだということを徹底されてたわけでありまして。

この職業奉仕、実は日本人は大好きなテーマであります。それは古くから聖徳太子の「和の精神」、利休茶における「一期一会」、近江商人の「三方よし」の経済哲学、江戸時代の庶民の風習であります傘かしげという「江戸しぐさ」、二宮金次郎の「道徳を忘れた経済は罪悪である」、渋沢栄一の「富をなす根源は仁義道徳である」と、経済的な形で言っております。いわゆる日本の商人道、それから人生訓が職業奉仕の理念と一致するところから、日本人には好まれてるんだらうと思っております。それから日本でロータリークラブを創設した米山梅吉のロータリー哲学によるところが大きいと思っております。

そして、倫理訓、道徳律ということですが、これが何故職業なのかです。これでローマカトリックからフリーメイソン、これは親愛を目的とする秘密結社であるとされ、ローマ法王は公式な機関紙の中に「ロータリーは危険だ」と公に言ってたということがあります。これが1989年に「職業宣言」というふうに変ったのであります。また、宗教上の考え方もあるかもしれませんが、キリスト教は、人は神が創ったものだという考え方が1つあります。ところが日本の場合は、人は修行によって仏にもなるという考え方です。この辺の違いが「職業」とわざわざ付けた意味があるのだと考えているのですが、よくわかりません。

次に2つ目、社会奉仕を中心に考える考え方でありま  
す。1906年、ドナルド・カーターが「こういうクラブは、  
会員以外の人に役立つようなことができれば、将来性はあ  
ると思いますよ。何か市民に対する奉仕をすべきだと思  
います」と言っております。

それを受けてシカゴロータリークラブではただちに次の  
項目を定款に付け加えました。「シカゴ市の最大の利益を  
推進し、シカゴ市民としての誇りと忠誠心を市民の間に広  
めること」、この定款がその後すべてのロータリークラブ  
に採択されて、「他者への奉仕」という理想が役割を担うこ  
とになったのであります。

最初の社会奉仕は、貧しい牧師さんに巡回用の馬を贈っ  
たことです。その次は、2年間に渡って百貨店と居酒屋と  
の抗争の末に、シカゴ市に公衆トイレを作ったという、象  
徴的な行為であります。これによってロータリーはロータ  
リー内外の人々に、特にシカゴ市民より賞賛されまして、  
同時にクラブ会員の心に奉仕という心を植え付け、目的を  
方向付ける出来事となったのであります。この精神はその  
後も途切れることなく、カーターの言葉どおりロータリー  
は100年を超えて、今、116年を迎えているわけでありま  
す。

1923年9月1日、関東大震災が発生しました。当時の  
R I 会長だったガイ・ガンディカーは、ただちに電報を  
寄せまして、R I が東京ロータリークラブに当時の金で  
25,000ドルの復興資金を援助し、これが呼び水となって  
全世界の506ロータリークラブから何億という義援金を  
贈られたということでもあります。このように社会奉仕の理  
想に基づくR I および世界のロータリークラブの奉仕の精  
神が日本のロータリアンの心に奉仕の心を植え付け、育成  
させたのであります。

わが西ロータリークラブを見てみますと、創立47周年  
の2003年、ネパールでの学校建築、井戸掘削をしており  
ます。ネパールには、武田元裕実行部隊長を中心に、第3  
次訪問団まで派遣した国際社会奉仕のWCSを実践して  
おります。また、ポカラの町の中に建設した小学校。それか  
らもう一つ、ポカラにあるネパールの第2の国立病院で、  
井戸水を掘りました。現地の新聞にも大きく出た奉仕活動  
であります。これがロータリーの社会奉仕だと思ってお  
ります。社会奉仕はまさにロータリーの醍醐味なのでありま  
す。

日本では社会奉仕は苦手の様です。その差は、国民主権、  
民主主義の理解の差であろうと思っています。コロナ対策  
からもうかがわれます。欧米では、法律というのは国民が  
主権者として定めるものであって、国民はその法に従う義  
務があるのは当然だという考え方でありま。ところが日  
本ではどうでしょう。法律は政府が作り、国民は義務を強  
制されるものであるという考えがあるのかもしれませんが。  
社会奉仕や社会福祉でも、国や自治体、行政が行い、もら  
うものである。国民個人が行うものではないんだという考  
え方が残っているような感じがいたします。

ロータリーが1905年当時、政府の腐敗、それから一部  
富裕層からの横暴から、市民を守るという歴史的事実から、  
国民主権を強調するならば、ロータリーは直接市民に対し、  
支援するのが望ましいだろうという、それは原則だろうと  
言えるのであります。

国際奉仕、ロータリー財団活動を含めて、大きな社会奉  
仕の活動というのは、今、国際ロータリーが1番強く押し  
進めている活動であります。そしてポリオ撲滅運動は今も  
続いております。歴史上の金字塔として輝いていますが、  
ロータリーの最大の強みは、このような国際的な奉仕活動

の展開であると言わしめております。この写真は当2800  
地区のバスターガバナーである新関彌一郎さんが2019年に  
カンボジアの現地子どもたちにポリオワクチンを投与し  
ている写真です。

次に3つ目が親睦であります。親睦が中核であるという  
考え方でありま。原始ロータリー、シカゴロータリーク  
ラブの定款というのは、「通常、社交クラブに付随する親  
睦」と定めておりました。この社交界、夜な夜な大舞踏会  
を開催してありまして、舞踏会は酒と音楽と女性を伴った  
親睦の場であったわけでありま。それで、少しその規模  
の小さいのがサロンと呼ばれております。ロータリーもこ  
のクラブやサロンの仲間入りをしたかったのかもしれませ  
ん。

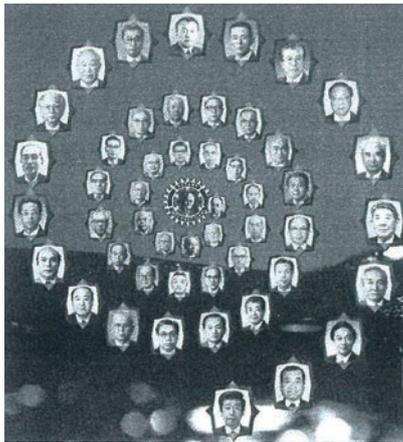
シカゴロータリークラブが目指した親睦とは、まさにク  
ラブやサロンで催される舞踏会の親睦だったのです。しか  
しながらこの親睦と利益の推進は、ドナルド・カーター、  
シェルドン、コリンズ、チェスリー・ペリーなどによる社  
会奉仕、職業奉仕の推進があったのでありますけども、世  
界のロータリークラブの中にこういう親睦が根強く残って  
いったわけでありま。そのため、ロータリーは各界から  
批判を受け始めました。1911年、ロータリーは市民の苦  
しみをよそに自分だけが楽しんでいるという閉鎖性を批判  
する新聞記事が相次ぎまして、ポール・ハリスを悩ませた  
のであります。1920年代から30年代にかけては、新聞の  
論説に「ロータリークラブの機能は会員がただしゃべるか、  
他人のおしゃべりを聞くだけである。行動することがない」  
と記載され、また、「ロータリーよどこへ行く、昼食を  
食べに行く」と、バーナード・ショーは嘲笑しました。アメ  
リカのマーキュリー紙は、ロータリーの商業文化を侮辱し、  
1922年出版の小説、『バビット』という小説に「尊大な中  
流の実業家が馬の合う男たちと背中を叩きあいながら、仲  
良く歌う。後援会に出ることを人生最大の楽しみとして  
いる」と皮肉り、ベストセラーとなったわけでありま。ロー  
タリーは何十年もの間、この批判を受け続けたわけであり  
ます。

一方、ポール・ハリスは5年間の放浪時代に、漠然と夢  
を見ていた構想がありました。それは親切で連帯感で結ば  
れた村の男たちが1カ所に集まり、いろいろな問題につ  
いて、時には人として、時には専門の立場で話し合うこと  
がどんなに楽しく快い刺激になるか。そこで培った知識と経  
験を結集して、他の人を助け、社会のために何らかの貢献  
ができるのではないか。そこには常に同志の素晴らしい友  
愛の精神があるだろう、と考えたわけでありま。親睦も  
自己目的ではなく利他目的に尽くすべきだと考えるよう  
になりました。

そしてシカゴロータリークラブの親睦と相互扶助とい  
うのが1912年になってすべて定款から削除されました。  
1912年にはまだ定款でしたけども、1918年から綱領。綱  
領には「成功を助け且つ奉仕の機会として広範な交友活動  
の増進」と入りました。

そして1922年には現在までおおよそ同じであります  
が、「知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること」  
と定められるようになりました。知り合いを広めること  
と親睦は英文からしても、違いは明らかであります。こ  
れはシカゴロータリークラブの時の親睦を書いたのであり  
ますけども、「good fellowship」と書いてあります。楽し  
い交友ということでありま。これが最後の新しい綱領で  
は、「development of acquaintance」と変わりました。  
これは知り合いを開拓しようということでありま。その  
ことにより、これを奉仕の機会とすることと書いてありま

して、ここに親睦は奉仕と結びついたのであります。奉仕活動をするために交友を深めること。新たな奉仕の機会を得るため、つきあいを広めること。そして自己研鑽のために友と語り合うことを求めたのであります。友と親しく交わり、語り合うことにより互いに影響を及ぼし、互いの道徳心を得て、自分自身を向上させ、すなわち職業奉仕と結びついたのであります。また、親睦を深め合うことによって社会奉仕の機会と活動が活性化するからであります。このように親睦は、職業奉仕、社会奉仕の源としての役割を持つようになったことから、これこそロータリーの中核であると主張するものであります。原始ロータリーの親睦を求めることは自己の楽しみのみを求め、他者へのまなざしはないのではないかと問われているわけでありませぬ。



最後になりますけれども、この写真を見ていただきたいと思ひます。ロータリアンの渦巻きを示しています。これは皆さん、ご存じの人はご存じだと思ひます。これは西ロータリークラブの50年史のカバーの裏にあった写真であります。真ん中にあるの

がポール・ハリスであります。2番目が、米山梅吉であります。3番目がわが西クラブの初代の会長、阿部一郎さんであります。最後の50代の中山さん、中山会長まで書かれております。

これはこれからさらに進みまして、今の佐藤章夫会長がいらっしゃるわけでありませぬけれども、ずっとつながっていることを私言いたいのであります。過去の人物の写真も示しましたのは、これも同じような形で、彼らと我々は今もつながっているんだ、彼らの努力のおかげで今があるんだということを知っていただきたいというような形で、これを最後に出させていただきます。これで今日の基調講演を終わらせていただきます。ご清聴誠にありがとうございました。

## パネリスト意見発表



### 及川 善大会員

本日、お手元の資料を見ていただきながら、聞いていただければと思ひます。

私、入会は2019年の7月でございます。そのときは、ロータリーというのがよく分からなかつたということもあります。関わりを持つ前に、ロータリーをどう思っていたのか、という話をまず率直にしていきたいと思ひます。

街の中を歩いておりますと何とか寄贈というところで、確かにロータリークラブという名前はよく見ておりました。なので、社会貢献をしている団体なんだろうなと。それからメンバーが会社の経営者の方々で、地位のある方々が参加をしているものと。格式が高そうだなと。

月卓話を担当するというところで1度お邪魔をさせていただきます。

きました。そのときに被災者支援との関わりという、私の仕事の災害復興支援のお話をさせていただいたんですね。災害発生時の自助、共助、公助、というお話をさせていただきました。

2019年にまず1度、入って見てみようというところで加入ということになりました。それで、1年目の1番最初に参加したビアパーティーのときでした。とにかくイベントには参加しようと思ひまして、飲み会を伴うものはだいたい出ました。特に大きなそのクラブの中での仕事というのをまだしていない状態でした。なので、ロータリーというのがどういふものなのか、1年ぐらいいく分かっておりませぬでした。ただ、参加をした1番の目的が私地元が山形ではない、宮城県の出身なものですので、こちらで人の繋がりを増やしたいというのがありました。まさに先ほどありました「親睦」の目的でしたので、それを最優先にして1年目何とかかんとか出てました。

それで年度が変わりまして、2020年度2年目に入りました。委員会の配属を見たらS.A.A.に配属されていると。S.A.A.の中で、例会の司会進行、いろいろなイベントの準備等々に関わる中で、ロータリーとはこういう団体なんだというのを、必然的に学ぶことになりました。そこで職業奉仕、社会奉仕という話も少しずつですが、認識をするようになっていったところでございます。

また、ファイヤーサイドミーティングに3回参加させていただいた中で、いろいろなお話を伺って、意識するようになりました。それで、私なりにロータリアン、ロータリーの意味をちょっと今回、改めて考えてみました。そうしたところ、親睦というのは間違っはなかつた。最初から親睦のところをまず1番にということで私は参加をしておりますけれども、人との繋がりを広げて一緒にすること、いろいろな職業の方と一緒にすることで自分の幅が広がるんだというのも意識することができるようになりました。それから入った後ですが、社会奉仕という内容、利他ではなく利己だった。それで、ロータリー財団とか米山奨学会へ寄付。わずかですけれども、させていただくようになりました。

私として今回、ファイヤーサイドでいろいろな話をされて、ロータリーとはなんですか、それぞれ、自分の中でどういふ目的で入っているかというところで、答えが1つである必要は必ずしもないだろうな、と思ひます。親睦のところでもいいですし、社会奉仕、職業奉仕どれもいいと思ひます。他のでもいいと思ひます。自分なりに、なぜロータリーに入っているのかということ意識して参加すること、それが1番意味のあることなのかな、と。ロータリとは、答えになっているかどうかは分かりませぬけれども、私なりの認識ということでお話をさせていただきました。



### 芦野 茂会員

私はそんな考えもなく、入りたかつたんですけども、なかなか入れてもらえなくて。申し込んだら、面接がありました。会社にずけずけと、その当時の委員の方が入ってまいりまして、3対1で面会をされました。その後審査されまして、推薦人を5人ほど付けていただきました。ようやく、西ロータリーの一員となれるようになりました。ですので、私にとっては山形西ロータリーがとてとても、大事。思い出深いクラブになっております。

さて私にとってロータリーとは何か、大変奥が深くて、今

日までロータリー活動で体験してきた話を、させていただきたいと思います。

私は2012年に入会して今年で9年目になります。当時は99名の会員だったものですから、名刺を99枚集めようとトランプ感覚で思ってたんです。来ない方いらっしゃるものですから大体70枚ぐらい、ご挨拶させていただきました。そんな中で早めに出席していると、先輩方から声を掛けられることが多くて、「ああ芦野君」Cさいだっけのか」とか、そんな声を掛けてくださる先輩も中にはおりまして、だんだんと例会に来るのが、今度は楽しくなってきました。

また親睦会とか行事においては、お酒の入った席では先輩方から西ロータリーの歴史、西ロータリーの伝説の先輩、「なんか俺ごしゃがったがら」なんていう先輩、西ロータリーのステイタスさや若き日の自分の話などを楽しくしていただき、ロータリークラブの理念などを学んでおります。

だんだん、ロータリーのことを知りたい、勉強したいなんて思ってる時に、4年前に突然、地区に出向を命ぜられました。無責任にも何が何だか分からないまま、地区の米山委員会へ出向させられました。そこはもう各クラブの大先輩の集団、パストガバナー、会長幹事経験者ばかり。ロータリー在籍が10年から30年ぐらいの方ばかりでした。しかし、「よし、ちょっと勉強してみようか」ということで、地区の委員会の行事やセミナー、必ず出席、少し早めに行って名刺交換、名前を覚えていただくというふうな努力をいたしました。そうすると、声を掛けられてもらえるようになり、楽しくなってきました。それで自然に米山梅吉のことが分かるようになりました。

ここで皆さん、4年間の集大成です。米山梅吉ということで、勉強の成果を少しお披露目させていただきます。米山梅吉とは、日本ロータリークラブの生みの親であります。大正9年、東京ロータリークラブを設立。日本のロータリークラブは大戦中さまざまな誤解や圧迫のため解散という憂き目に遭いますが、昭和24年、国際ロータリー、RIに復帰しましたが、米山梅吉はそれを見届けることなく、昭和21年、その生涯を終えることとなりました。

その後、昭和27年、米山梅吉の功績を永久に偲ぶことができるような有益な事業を始めようと声上がり、当時東京ロータリークラブの古澤文作会長によって、奨学事業米山基金を設立しました。最初は東京ロータリークラブの単独事業として始まったのです。その後、事業は日本全国の共同事業へと発展し、昭和42年、財団法人ロータリー米山記念奨学会が設立されました。この奨学会はやがて日本と世界を結ぶ架け橋として、世界にも類を見ない大きな奨学事業に成功しました。今年で54年目を迎えることができました。引き続き米山委員会の活動や奨学生の情報を皆さまにお伝えしたいと思っております。

地区に入ってから、酒田、鶴岡、長井、米沢、天童、東根と多方面のクラブのほうにメイクで訪問いたしました。そこで私が感じたことは、やっぱり山形西ロータリーはいい

な、という感想です。

最後になりますが、今回のテーマ「ロータリーとは」を考えました。私は歴史と伝統、またステイタスのある山形西ロータリークラブそのものが、私にとってはロータリークラブです。答えになってるかどうかは分かりませんが、以上、これで締めさせていただきたいと思います。



武田 元裕 会員

ネパールの話をここでもう一度、する必要あるんじゃないかと思っております。山形西クラブがネパールで事業をやってたって知らない人、おりますね。今からもう20年前、当時2001年度に、細谷さんがたまたま国際奉仕の理事になられました。これまで40数年経つただけけれども、国際奉仕っていうか事業らしいものをしたことがないんじゃないかということで、細谷さんが考えられたんですね。その当時、長沢純一郎先生の娘さんがネパール人に嫁いでおりまして、その彼がサティス君、ネパールでトレッキングガイドをしてる縁で「ネパールのトレッキングコースに、トイレを寄付したらいいんね？」という話から始まったんです。それで僕の商売が、たまたまトイレ関連なもんですから、「じゃお前、一緒に行かんねったな」ということで、ずるずるとなんと10年もお付き合いになってしまったってことであります。

それで2001年というのは皆さんご存知のように9.11がありまして、2001年の秋にネパールに現地調査に行く予定でしたが、9.11の影響でまるまる1年、2002年の10月の後半から行ってまいりました。最初は6名で行ったんですけども、その後、2002年、3年、4年って3回西クラブでは行きました。

社会奉仕でも国をまたいでますから、国際的な奉仕で、その当時は世界社会奉仕っていう名称で呼んでおりました。最初はネパールにトイレを作ろうってことで行きました。現地にポカラロータリークラブができて5年目ぐらいのクラブと共同で。どんなものが現地として要望があるのかという調査が第1回目。我々はトイレだったんですけども、最初に連れていかれたのが、市立小学校です。その小学校は日本と違って、子どもたちがいっぱいいるんですよ。8時から12時はここの子どもたち、1時からあれはここの子どもたちって、同じ教室を使い回して、同じ時間には学ばないっていうものでした。その他に、1日おきに断水する国立病院、あとは難民キャンプ場とかいろいろご案内をしていただきました。それを見せていただいた後に現地でも6人で話をして、「トイレどこじゃないのんね」と。やっぱり識字率向上とか、やっぱり教室、学校の増築にすべきじゃないかということで、増築のためにお金を出すことに決めました。

RC鉄筋コンクリート1階建て6教室。当時のお金で185万円できました。そのお金が、我々のクラブに今もあるかどうか、クラブ奉仕基金があります。そこから西クラブ単独の事業として出させていただいたということです。それで次の年は、その小学校の完成を確認する意味、竣工式に出席することで訪問したわけでありまして、2003年は、竣工式の後に、前の年も見せていただいた国立病院に連れて行かれまして、バケツに汲み置いた水で医療行為をしてる様子をまざまざと見せられて、井戸掘削事業を400数十万円。うちのクラブ単独では出せないの、WC5の資金を使わせていただきました。それで2004年、3回目は、その井戸の完成式。

何で今そのネパールの話をしてるかという、今は社会奉



仕的な事業は全然、残念ながらやれてないと思います。その時に感じたことは、ロータリーは親睦、奉仕でありますけれども、親睦と奉仕って二者択一の問題なんじゃないかな。僕も卓話で回って、そういうクラブがたくさんあるのを知ってます。僕は今回「ロータリーとは」というテーマをもらっていろいろ考えてみて、「いやあ、決して二者択一の問題ではないんじゃないか」と。

例えば僕は幸いなことにそのネパールで経験をさせていただいて、その事業でとにかく7泊8日ぐらいのものを3回もやるわけですから、自然と、朝もお昼も晩も一緒なわけですから、いろんなお話をします。そういったものが親睦なんじゃないかと。それでその中でやっぱり先輩方に「ロータリーで何なのやす」とかいろいろ話も多分出たんでしょう。そうやって考えてみると、その親睦で培った力が多分こう奉仕に向いてくんじゃないかというような気がしています。

もう1つの問題は、ロータリーは、奉仕する団体ではなくて奉仕する個人の集まりだよと。

それでね、これは今時点の僕なりの考えです。クラブでは、ネパールとか、例えば3.11の後の石巻復興支援芋煮会とかやりました。それは、本来の個人が奉仕をするためのトレーニングとして、考えてみたらどうかと。というようなところを、今思ってるところであります。



真剣なミーティング風景

## 感想・総括

### ◎細谷信夫パストガバナー

3人とも非常に優秀な会員で、その通りだなと。入ったばかりの中堅と、ベテランと、それぞれの持ち味がありました。

及川さんのほうには、今ちょっと勉強中ですごく考えてるのが、いいなあと思います。ロータリーはまず考えることから始まるんだろうという感じがします。

社会現状を認識して考えると、自分が何をするかを考えるのがロータリーだと思ってます。それを皆さんよく考えてらっしゃるから、優秀だなと。

### ○及川善大会員

何をしたいか、そう言われるとなかなか難しいなあ。ただ、やっぱりこうロータリーの、ロータリアン、ロータリークラブの一員であるって話を外にすることによって、周りの見方が変わるんだなというところは多少なりとも思っています。自分の身をきちんと律するところ、しっかりやった結果として、何らかの社会貢献につながればいいのかと、一応そんなことを考えるようになりました。

### ◎細谷信夫パストガバナー

よくロータリーでは、「5年目が一番危ないんだ」と言われてますので、今までやめたいなと思ったことないですか？

○芦野 茂会員 残念ながらやっぱりないですね。

### ◎細谷信夫パストガバナー

相当勉強されると思いますので優秀だと思います。

元裕さんはさすがベテランを代表して、ロータリーは何をすべきかをきちんと分かって、そして悩んでんのかな、あるいはジレンマ感じてるのかなという感じがしました。これから西クラブとしてはどうあるべきかって、思ってたっしょいいますか。

### ○武田元裕会員

やっぱり何らかの形の社会奉仕活動を、もう1回何かでやっていけたらと思います。そうすると、メンバーもロータリーもより一層活性化するんじゃないかと思えます。

### ◎細谷信夫パストガバナー

みんなで何かやろうということがクラブの活性化することだと。ガバナーが出ると一丸となってすごく頑張る。それから周年記念があったらそこで一緒になって頑張る。

## ～会員感想～



### 後藤 章洋 会員

入会して間もない方の意見としては、職業人として、ロータリーを通していろんなことを知りたい、語りたいということをおっしゃってました。

例えば職業奉仕ですけども、経験、入会してかなり経っている会員さんのお話では、最初はやはり社会に役立つ仕事をやろうと思ったと。それが職業奉仕の1つだと思ってやってきたけど、ベースとなっているのは、やはりその親睦があるんじゃないのかな。

「ロータリとは」という本質の部分というのは、こういう話、たくさん話を聞いて、これからも研鑽を積んでいこうという意味を確認したところであります。

### 佐藤章夫会長

総括というか私の感想を申し上げます。

分からなかったことが、今更、今日加えてですけれども、大変分かるようになりました。うちのクラブは人数が多いこともさることながら、年齢の幅が広いんです。それと今日も3人のパネリスト、出ていただいた方に感じました。西クラブはもう大丈夫でございます。

私の経験上、ロータリークラブはどこもそうじゃないかと思うんですけども、配属委員会や、委員長の職務が突然天下りで、上から来るんです。それで誰も断る人がいない。これは素晴らしいと思います。1年ごとに変わりますけれども、それで私も随分いろいろな委員会を渡り歩いて、委員長も経験し、勉強させていただきました。

今日の細谷パストガバナーのお話とか、発表なさった3人の方の非常に貴重な発言でありましたので、会報に、今回だけはページ数を増やしてもいいから、全部収録してほしいと。場合によっては、今日のためだけの小冊子を作って、後に残しておいてもどうかと。そんなことを考えておりました。

今日は本当に良いフォーラムだったと私は自己評価しております。皆さん方、本当にどうもご苦労さまでございました。ありがとうございました。

本日出席 (2 / 15)	会員総数	出席会員数
	101名	43名